

平成16年度第4回理事会議事概要

日 時 平成16年7月30日(金) 13:30~14:30

場 所 特別会議室

出席者	理事長	田 中 潔
	理事(企画・総務担当)	藤 原 敬
	理事(森林研究担当)	桜 井 尚 武
	理事(林業・木材産業研究担当)	池 田 俊 彌
	監事	今 村 清 光
	監事	井 上 徹 雄
	企画調整部長	石 塚 和 裕
	総務部長	周 藤 眞
	事務局(企画科長)	藤 井 智 之
	事務局(総務課長)	加 藤 秀 春

1. 開会

2. 議事

(1) 第17回独立行政法人評価委員会林野分科会概要報告について

(藤原理事)

<資料1：第17回独立行政法人評価委員会林野分科会議事次第により説明>

平成15年度評価については、6月29日の林野分科会で審議が開始され、非公式ではあるが7月21日のワーキングチーム会議においての評価委員からのコメントに対する対応をしており、現在作業が進行中である。8月18日の第18回林野分科会において最終的に正式な評価が示さ

れることとなる。

(井上監事)

評価委員からのコメントに対する回答は済んでいるのか。

(藤原理事)

基本的には、これまでの評価委員のコメントに対して7月21日のワーキングチーム会議までに文書で回答を行っており、これらを受けて8月18日の評価委員会において平成15年度評価を受けることとなっている。

(田中理事長)

この件については、8月18日の評価委員会の結果を待ってからの議論とし、今回は現在進行中であることを確認し、了解する。

(2) 平成16年度一般職員・技術専門職員の昇格について（報告）

(周藤総務部長)

<資料2：平成16年度一般職員・技術専門職員の昇格についてにより説明>

(石塚企画調整部長)

今後、係長の中で6級ポストの数が増えていくのか。

(周藤総務部長)

6級ポストについては、暫定枠の範囲内のことであり、増えていくことはないと思う。ただ、一番問題なのは4級係長の候補者が多く、ポストにも限りがあるため、この対応をどのようにしていくか今後の課題である。

(田中理事長)

他の研究所などに比べて昇格の遅れはあるのか。

(周藤総務部長)

4級係長に若干の遅れが生じている。

(田中理事長)

本件については、報告のあったとおりで了解する。

(3) 平成16年10月研究職(選考採用)の募集について(報告)

(石塚企画調整部長)

<資料3:平成16年10月研究職(選考採用)の募集についてにより説明>

本件は既にホームページ上で公開している。なお、来年の4月に今回の研究分野以外での採用を予定している。

(藤原理事)

研究職の場合、1年のサイクルの中で採用時期が適切であるというものはあるのか。

(石塚企画調整部長)

基本的に採用条件が博士取得見込み若しくはそれ以上の者としているが、ほとんどが博士課程修了の者であり、時期に限定はない。ただ、他の機関で任期付として研究に従事していた者などを採用するといったケースもあり、年齢的にも30歳以上の者が多いのが現状である。

(今村監事)

最初の説明にも考慮しているとあるが、I種採用については今後どのように考えているのか。即戦力で優秀な者を必要な場所へ選考採用により採用するのも良いが、以前も言ったように穴埋め的に見える。森林総合研究の「総合」というのはどのような力で発揮されるのかというのを考

えると、森林総合研究所としてもこの分野でI種採用を考えているというのをもっと表に出していく必要があるのではないか。専門分野が広いということもあると思うが、I種採用に対する考え方をもっと良く検討すべきだと思うが。

(石塚企画調整部長)

I種採用の場合、研究の実績まで問えないこともあり、なかなか難しい状況ではある。

(今村監事)

それは分かるが、それが常態化してしまうのはどうかと思う。実際にI種という制度があり、これに対する森林総合研究所としての姿勢は出していく必要はあるのではないか。

(田中理事長)

I種も考慮しながらということは言っているが、確かにその方針については表に出してはいない。選考採用が中心となっているということはあるが、I種採用をしないという訳ではない。

(今村監事)

選考採用も人気のある分野の人材については問題ないが、人気のない分野については結果的に応募がなく、先細りする可能性もある。ここが大事だと思うので、何か方針を検討する必要がある。

(池田理事)

選考採用で募集する分野によっては、大学にはない分野もあり、ここでの人材をどう得るかは手段の問題である。研究の長期継続の成果を考えると、これをI種に求めるのは話が違ってもいいかもしれないが、募集の範囲を広げるという意味ではI種を考えても良いと思う。

(田中理事長)

I種であっても採用分野は限られる。仮に選考採用がだめでI種でとなった場合に、I種に合格したのだからどの分野でもという訳にもいかないし、逆に難しいと思う。

(石塚企画調整部長)

いろいろな分野を選考採用で公募を行っていれば、森林総研に入りたいためにたとえ自分とは違う分野であっても応募してくる者もおり、有望な者を認知することができることもある。

(今村監事)

そのようなこともあると思うが、特に人材の少ない分野ではそのような者は貴重な人材になると思う。ところで、今回の募集の中で昆虫の関係が細かく示されているが、ここまで分ける必要はあるのか。

(池田理事)

専門分野が違うので、天敵微生物と生理活性物質による害虫防除についてはここまで分ける必要がある。

(井上監事)

募集に関しては選考したい分野について選考することになるが、分野によっては、チームを組んでの調査など幅広い研究対応も必要で、採用者にもその辺の認識をしてもらうことも必要だと思う。

(田中理事長)

自分の専門の枠を超えて幅広くと、面接の際に本人に対して言う場合もある。

(井上監事)

選考採用で応募してくる者の中にI種合格者はいるのか。

(石塚企画調整部長)

何人かそういう者もいる。

(桜井理事)

I種合格しても、有資格者としての期限が切れてしまう場合もあろう。I種レベルで定着しないでそのまま研究を続けて、専門化して選考採用というのがいるということであろう。

(田中理事長)

I種採用については、今後において問われた際に対応できるよう対応方針を検討することとする。選考採用の募集については、説明のあったとおりで了解する。

次回平成16年度第5回理事会は8月20日(金)を予定する。

3. 閉会